

## 2024年度 職員の研修報告②

夏休みには様々な研修に参加しました。学びの大きい夏となりました。

### ★2024年度 横浜市幼稚園大会 教育研究大会

『事例を通して考えよう!今横浜で大事にしようとしている子どもの育ちとは』 講師:三谷 大紀

#### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・横浜市で行われている研修には子どもの実践を「多義創発的にみる」ことを「おもしろがる」コミュニティ作りという思いが込められているものがあることを学んだ。多義創発的とは、多くの視点から物事や事例を見て様々な解釈を作り出していくという意味があった。
- ・わくはま研修会:預かり保育を変えよう、預かり保育から変えよう。子どもの主体性、環境構成の充実と工夫をし、園内の語り合う風土の確保が必要である。
- ・幼稚園、保育園と小学校との円滑な接続が必要である。園での育ちと学びが小学校でも活かされるという実感を持てるようになることよい。互いの先生同士が互いの取り組みを尊重することが大事である。
- ・事例の中で、集団の遊びや活動にあまり興味を持っていない子の遊びを追っていくと、その遊びのおもしろさがわかりクラスの遊びにつながったという事例があった。集団の活動にその子をどのように入れるかではなく、その子が興味を持っていることや遊びに集団がどのように参加して楽しめるかを考えることも、時には大切だということ学んだ。そのことをエピソード記録にしたり保育者間で話をすることで他者からの多様な視点でとらえることができるのだと思った。

#### ○保育へどう活かしていくか

- ・遊びがおもしろいのは着地点が見えないからだと思うので、1人の子の問いや「おもしろい」「やってみよう」を子どもと共に実現を試みることで他児にも広がっていくと思う。
- ・保育の中で、「余白」や「ゆとり」が大切だと思うので意識していきたい。おもしろがることも大切にしていきたい。
- ・預かり保育について詳しく聞くことができた。今まで意識していなかった預かり保育ならではの良さやできることの幅の広さなどを知り、預かり保育に入るときにはその意識を持って保育を楽しんでみたいと思った。
- ・預かり保育では、じっくり遊ぶ時間が長いからこそ縫い物などの遊びや遅い時間だからこそ見られる空の色など普段の保育とは違った焦点で保育をしてみたいと思った。
- ・最近よく耳にする往還型研修の良さが改めてわかった。実際に他の園の保育を見たり、何度も繰り返し話し合いをすることで見えてくるものがあったり、自分の保育につながられることが増えてきているので、これからも様々な研修に参加していきたいと思った。

### ★幼保小 夏の教育連携研修会 分科会

#### 【表現部会】

#### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・本物の経験だからこそ子どもたちが考えたり感じたりできる部分があると思った。そのために保育者自身も楽しんでやっている様子を子どもたちに見せていくことも大切だと思った。
- ・子どもの興味がどこにあるか、「子どもたちの「やりたい」という気持ちを見逃さず次につなげることが大事だということ。

## ○保育へどう活かしていくか

- ・本物の経験はもちろんそうだが、保育者が目の前で実際にやって楽しんでいる様子を見ることで子どもたちにもわくわくした気持ちが生まれたり、自分でもやってみたいという探求心が生まれたりするのだと思った。普段の保育では子どもたちから生まれた「やりたい」を元に遊びの準備をしているが、時には保育者が楽しんでやっている本物の経験も取り入れたいと思った。

## 【環境部会】

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・保育ウェブ：子どもの姿の予測、発信、やったこと、準備物をまとめて月案を作ったりすることができる。考えを整理したり、新しいアイデアを生むためには有効である。
- ・四季折々の自然に触れる活動を計画：保育者自身が自然のおもしろさや不思議さを知ることが大事。自然を使った遊びを保育者が調べてから行ったり知識を持っていたりすることで、ただ歩くだけの散策にならない。
- ・活動内容を視覚化すること：実際の葉っぱなどを直接紙に貼って飾ったりすることで見つけたものをまとめておける。

## ○保育へどう活かしていくか

- ・保育ウェブを活用してみたいと思った。楽しんでいる遊びを一覧にして今後どのように発展できそうか、実際の子どもたちの姿などをまとめることでさらに遊びが充実したり保育者の準備もしやすくなるのではないかと思う。また、それぞれの遊びで終わるのではなく、楽しんでいる遊び同士をつなげるアイデアも生まれやすいと思った。
- ・四季折々の自然に触れる活動をもっと計画していきたい。子どもたちが自然の魅力や不思議さに気付けるためには、保育者自身が自然のおもしろさや不思議さを知っていたり事前に調べてから行ったりすることでただ行くだけで終わらないと知り、自分自身の知識を増やしていきたいと思った。

## 【人間関係部会】

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・幼稚園や保育園で経験した「話し合い」が小学校になるとさらに広がっていくことを知り驚いた。
- ・小学校の先生の話聞き、自由遊びや生活の中で何気なく経験していることが学校の教科の得意なことに繋がっていることを知った。

## ○保育へどう活かしていくか

- ・話し合いと聞くとハードルが高く感じてしまうが、年少からの伝える経験や聞く経験、聞いてもらえる経験が小学校の話し合いに繋がっていることを知り、これらの経験が大切なことだと思った。

## 【健康部会】

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・健康についての話といっても、心の健康・体の健康など様々で、幼稚園・保育園・小学校の話聞くことができて良かった。特に子供の意見を取り入れた行事を作ったという園の話は、港南台幼稚園のさくらわ

くわくデーやうんどうかいと似たものを感じた。

- ・子どもは近くの大人が「自分の気持ちを受け止めてくれる」「気持ちを自由に言っているんだ」と雰囲気を感じると本当の気持ちを伝えることができたり意見をのびのびとすることができるようになるのだと思った。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・ディスカッションの中で、港南台幼稚園は行事の一部を子どもの意見を取り入れて作っているという話をするととても驚かれた。毎年子どもの姿や興味は違うので今年の子どもは何を楽しんでいるのかを捉え、どのような力を育てたいかを考えていると話をするとうれしかった。港南台幼稚園では、「ここを大切にしたい」という気持ちが保育者みんなが同じ思いであり、それが当たり前と感じていたが、それが当たり前ではなく有難いことだと再確認した。
- ・食育の話の中で、栄養士がいない園はどのように伝えていけばよいか、という話になり子どもと一緒に調べたり考えたり、おいも掘りで持ち帰ったおいもを家庭で調理したものを写真で持ち帰ってもらうことも食育につながるのだと感じた。子ども園になってからも生かせそうな意見をたくさんもらったのでこれから取り入れていきたいと思う。

## ★植物あそびのススメ 講師：出原 大

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・講師の先生が実際に植物を使いながら特徴などを伝えていた。ちぎるとネバネバする物、すりつぶすと色が出る物、絵が描ける葉っぱは葉書の語源となったことなど様々な知識を得ることができた。
- ・落ち葉など特に目立った特徴がないと思われるものでも、手で簡単に粉々にしてパウダーのようなものを作り、それをいろいろな用途で使う(お料理ごっこ、のりアート等)ことができることを教えていただいた。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・秋に木の実を集めて種類ごとに置き、大きさの違いや形の差などに気がついたり制作や外遊びにも使ったりするきっかけ作りをしたいと思います。ヒマラヤスギや松ぼっくり、椎木やクヌギ、コナラなどのどんぐりなら身近にあり、手に入りやすく量も十分に確保できるため、実現しやすいと思う。子どもたちも興味を持ったりすれば探しに行くことも楽しめると思う。また、ムクゲというお花は、捏ね続けるとスライム状になると聞いたので、毒の有無など調べてなければやってみたいと思った。

## ★横浜市幼稚園協会 第二回教員研修会

### 第一分科会 「環境構成について～持続可能な社会の作り手を育むために～」

講師：桐川 敦子(聖徳大学大学院教職研究科・聖徳大学教育学部 児童学科教授)

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・ESD(Education for Sustainable Development)⇒持続可能な社会の実現につながる教育の事である。
- ・乳幼児期に培われた価値観、態度、技能、行動、習慣の基礎はその後の人生に長く影響を与えるため、保育はESDの出発点である。
- ・問題解決に必要な「7つの能力・態度」とは、①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他社と協力する力 ⑥つながりを尊重する

態度 ⑦進んで参加する態度 これらの力はすべて非認知能力である。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・保育者の環境構成をする 10 のポイントがある。①自然 ②物 ③人 ④色 ⑤色以外の視覚刺激 ⑥音 ⑦空間 ⑧動線 ⑨時間 ⑩気温・温度・空気の質 意識できていないものもあったので 10 の要素を振り返りながら保育をしていきたいと思った。
- ・子どもたちの非認知能力を育むために、子どもたちが話し合ったり、力を合わせたりする場をこちらが意図的に、けれどもごく自然に行えるようにしたい。
- ・園庭の自然物をフル活用できるよう、生活に取り入れて遊べるように環境作りを工夫したいと思った。
- ・改めて緑豊かで自然がいっぱいの園庭があることに感謝し、それを活かして葉や虫、花、木々などにも意識をして子どもたちにも声掛けを行っていきたい。

## ★横浜市子育て支援員研修 心肺蘇生法 神奈川県総合薬事保険健康センター

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・子どもたちが死亡に至るきっかけは呼吸停止が圧倒的に多い。そのために人工呼吸が必要(大人は不要と言われることもある)と学んだ。
- ・気道内異物では窒息のサイン(⇒喉をつかんで苦しそうにする)時は無音で起きているため見逃さないように観察することが大切。
- ・乳児の睡眠中の突然死のうち、2割は仰向けだったとの報告がある。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・観察のポイントと応急手当を学んだ。基本的には以前から学んでいたことだったが、実際に使うことは少ないため、繰り返し学ぶ必要を感じた。
- ・今後は午睡の人数が増えていくと思われ、また他の事故についても未然に防げるよう先生たちと協力していきたい。

## ★ほいく is 「言葉の発達」パート1~4 講師:寺島 理映子

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・パート1 から 4 までの話を聞き、着目点について印象に残った。子どもが何を手掛かりに「状況」を理解しているのか、何を手掛かりに「ことば」を理解しているのか、その手がかりがわかることで支援の仕方が見えてくると思った。
- ・インリアルアプローチという言葉を知り、その内容を見てことばの見方が広がり、このようにアプローチしていくことがよいことが分かった。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・今までことばについて相談されることもあったので、パート4の話はとても聞いてよかったと思った。聞かれたことに対してすぐに答えを出さなければと思ってしまいが、相談者がなぜそう思ったのか、心の内をもっと聞いていきたいと思った。
- ・子ども1人1人のことを見るときに、「何を手がかりに」という着目点を活かしていきたいと思った。

## ★子ども理解が深まるまなざしと保育者の専門性

～doing 保育から being 保育への転換を目指して～

講師:井桁 容子

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・人はみんな助け合って子どもを育ててきた。⇒赤ちゃんは生理的早産で未熟で 1 人では何もできないので養育の負担は大きく、親だけがそれを担うのは大変である。保護者にとって「園」との出会いは重要であり、親としての土台が築かれる大事な時期である。
- ・共感と同感の違い。⇒共感は気持ちを理解しようと傾聴することである。「はいはい、そうだね」「そうしたいのね」だけでは同感である。大人に共感された子どもは相手の目を見てわかろうとする。目を合わせることは心の安全に重要なことである。これを三項関係という。
- ・環境について⇒保育者の感情は子どもに伝染する。声色・視線・仕草・表情・口調伝わる。
- ・優れた保育者とは⇒子どもの気持ちが全て理解できることではなく、自分の考えと子どもの思いが違ったときに柔軟に自分を修正できるということである。子どもも生き物であり常に変化している。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・現状を知り、保護者や保育者に対して共感できる人でありたいと思った。最後の「頑張らせすぎない」という言葉も印象深く、常に頑張っている人にはほっとできる言葉をかけられるようにしたいと思った。

## ★子どもの発達シリーズ 『知覚の発達』

講師:加藤 正晴

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・見ることは解釈することである。
- ・高さの知覚は経験を通じて解釈を得る。
- ・視線を合わす意味⇒コミュニケーションの開始のシグナルである。
- ・動物実験によると、騒音下では聴覚に不可動的な影響を受ける。
- ・雑音から聞きたい音を聞き分けることができるようになるのは 10 歳からである。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・保育現場では子どもの声、先生の声などが反響し騒音レベルが高いのでそのような環境の中では、音の分別ができない子どもはどの音にも反応してしまい、音が混ざってしまう細胞が育ってしまうとのことだった。だからこそ、騒がしいと感じない、感じさせない保育環境作りが大切だと思う。

## ★乳児保育/幼稚園 認定こども園キャリアアップ研修

講師:井桁 容子・箕輪 潤子・岩井 久美子

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・胎児の時から味覚の訓練を積んでいる。羊水は味<sup>みらい</sup>蓄の細胞を興奮させる化学物質を含んでいる。羊水は常に変化している。生まれる前から味を感じている。羊水はしょっぱいらしく産まれたあと塩分が多くても食べられてしまう。そのため、離乳食は薄味から始めるとよいとのこと。
- ・保護者にとってもアタッチメントが大切である。乳児期にどんな園、どんな先生に出会うのかによって、その後の子育て感が作られていく。
- ・1, 2歳児期の「イヤイヤ期」は「イヤと言える期」わかってもらえないと騒ぎが大きくなり長引く。

## ○保育へどう活かしていくか

- ・胎児の時から味がわかっているということを初めて知った。子ども園になり1歳児が通うようになると、まだ離乳食が完了していない子も来るため離乳食についても詳しく学んでいきたい。また、胎児期についても知識をつけたいと思った。
- ・乳児保育の研修で繰り返し出てきた言葉は「アタッチメント」であった。子どもにとってのアタッチメントだけではなく、保護者にとってもアタッチメントが必要であることを改めて感じた。
- ・保育者の行為は保護者に見られている。例えば、保育者が子どもをきつく叱っていたりするのを見て、我が子もそうされているのではないかと不安になる。保育者として成長するためには、無意識にしている自分自身の行為に気付くことが大事である。保育者同士お互いに気付いたことを声を掛けられる同僚性を築いていきたい。

## ★幼稚園における2歳児の保育～その多様性と質について考える～

講師:古賀 松香

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・幼稚園で観察される仲間関係や行動は母親とではなく、幼稚園の先生とのアタッチメントの安定性のみが影響する。⇒2歳児クラスは幼稚園の入り口。2歳の時の先生との関係性がその後の関係にもつながっていく。
- ・保育者の感性(センシティブティ)が大切。子どもを明確になっていない意図や感情、欲求などを持つ心の行為者として扱い、心を気遣うこと。⇒言葉が出ていなくてもその子の思いがあることを受け止め反応する。
- ・この人と一緒にこれが見たい、見てくれた!という喜びがこの人ともっとしゃべりたい、コミュニケーションを取りたいという意欲が育まれていく。

## ○保育へどう活かしていくか

- ・2歳の発達について改めて学ぶことができた。やはり保育者とのアタッチメント形成が大切であること、それを基に言葉の発達をはじめ様々な発達の土台が作られていく。
- ・絵本を読んでと言われた時に(まずは手に取れるところに絵本を置いておく)応えていくことで言葉が豊かに育っていく。また、絵本に限らず歌やことば遊びも日常の中で取り入れていくことで言葉が豊かになっていく。
- ・ものの認識が育つ時期であることから、「おおきいね」「ちいさいね」と違いを対比して意識的に言葉に表していくことで子どもが楽しさや面白さを感じる中で認識を豊かにしていく。